



Title	趣旨説明／参加者名簿／プログラム
Author(s)	
Citation	近代東アジア土地調査事業研究ニュースレター. 2007, 2, p. 1-3
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/27039
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

国際ワークショップ「近代東アジア土地調査事業研究」

International Workshop on Comparative Study of
Cadastral Survey in Modern East Asia

2006年12月2日～3日、大阪大学において国際ワークショップ「近代東アジア土地調査事業研究」が開催された。この国際ワークショップは科研課題「1930年代広東省土地調査冊の整理・分析と活用」（基盤研究（A）、2005～2008年度）の一環として、科研代表者である片山剛教授の主催で行われた。国外からは、報告者として国立台湾科技大学の陳淑銖副教授を、コメンテーターとして韓国の成均館大学校から宮嶋博史教授を迎えた。盛大に行われた。

1. 開催の趣旨

2005年度から、科学研究費補助金の研究課題「1930年代広東省土地調査冊の整理・分析と活用」（基盤研究（A）、2005～2008年度、代表：片山剛）がスタートしました。当初は、1930年代の広東省で実施された土地調査事業の際に作成された「田畠調査冊」を主対象に、本課題を進める予定でした。しかし種々の偶然があり、時代的には1930年代だけでなく、その前後の時代も含め、また地域的には広東だけでなく、中国の他省、特に長江下流地区も含めて考察する必要性と面白さを感じ始めました。さらに、近代的土地調査の方法や技術の東アジアにおける移転という視角から、China Properのみならず、日本・沖縄・台湾・朝鮮半島・中国東北部（旧満洲）なども視野に入れて研究を進める必要性を認識するに至りました。

とはいっても、本科研メンバーのうち、人文地理学の小林茂教授を除き、中国史関係のメンバーは、従来、時代的には明清から近代、地域的には華北から華南のChina Properを研究してきた者が多く、1930年代～40年代といった現代史や、台湾・中国東北部・朝鮮半島といった地域を専攻する者は少ない構成となっています。ただし逆に言えば、明清から近代のChina Properを研究してきた者の視点で、新たな切り口を示せるのではないか、とも考えています。

このような現況および今後の研究展開に鑑みまして、本ワークショップの開催を企画するに至った次第です。その趣旨は、本ワークショップにおいて、主に本科研メンバーが報告するとともに、土地調査事業に関する中国明清史や中国現代史、さらに朝鮮半島・中国東北部の先駆的研究者をお招きして、その独自の蓄積・視角から、コメントやアドバイスを頂戴し、今後の研究の展開に活かしていきたいと考えたことにあります。

報告者のうち、台湾からお招きした陳淑銖博士（国立台湾科技大学副教授）は、『浙江省土地問題と二五減租、1927-1937』（国史館、1996）、『從減租到扶植自耕農：抗戦時期至

戦後国民政府的土地改革（1937-1949）』（文史哲出版社、2002）等の著書を公表されています。小林茂は、近代的土地調査の前提となる、土地調査の方法や測量・製図の技術について、その近代東アジアにおける伝播・移転という視角からの報告を、稻田清一は、1930年前後に刊行された『浙江省土地局年刊』にもとづき、土地調査事業、特に地籍整理の作業の流れを整理するとともに、1998年前後に中国大陸で出版された「土地志」を分析・活用した報告を、片山剛は、1947年前後に作製された地籍図を紹介するとともに、本地籍図から窺える農村社会の実相について報告します。

2. 参加者名簿

稻田清一（甲南大学文学部教授 明清～近代史）
岩井茂樹（京都大学人文科学研究所教授 明清～近現代史）
江夏由樹（一橋大学経済学研究科教授 近代中国東北史）
大坪慶之（大阪大学院生）
梶原 真（大阪大学院生）
片山 剛（大阪大学文学研究科教授 明清～近代史）
小島泰雄（神戸市外国語大学外国学研究助教授 人文地理学）
小林 茂（大阪大学文学研究科教授 人文地理学）
笹川裕史（埼玉大学教養学部教授 中国近現代史）
田口宏二朗（追手門学院大学文学部講師 明清史）
陳 淑銘（台湾 国立台湾科技大学副教授 中国近現代史）
鶴見尚弘（山梨県立大学学長 明清史）
中塚翔太（大阪大学院生）
鳴海邦匡（大阪大学総合学術博物館助手 人文地理学）
白 玉冬（大阪大学院生）
橋本浩一（大阪府小学校教員 中国近代史）
藤澤聖哉（大阪大学院生）
宮嶋博史（韓国 成均館大学校東アジア学術院教授 朝鮮史）
山本 真（筑波大学人文社会科学研究科講師 中国現代史）
山本 一（大阪大学院生）
渡辺理絵（茨城大学人文学部非常勤講師 人文地理学）

3. プログラム

開催期日：2006年12月2日（土）3日（日）
開催場所：大阪大学文学研究科本館2階 第一会議室

◆12月2日（土）

受付開始 12時00分
開会 13時00分

報告1 小林 茂（大阪大学）・渡辺理絵（茨城大学）
「近代東アジアの土地調査事業と地図作製」
報告2 陳 淑銘（国立台湾科技大学）

「1940 年代閩西龍巖縣農家經濟與地權異動」

報告 3 稲田清一（甲南大学）

「民国期、江浙における地籍整理事業の作業過程」

報告 4 片山 剛（大阪大学）

「1947 年前後作製の南京江心洲の地籍図と農村社会」

終了 17 時 30 分

レセプション 18 時 00 分開始 20 時 00 分終了

◆12月3日（日）

再開 9 時 00 分

コメント 1 田口宏二朗（追手門学院大学） 主に陳淑銖報告について

コメント 2 山本 真（筑波大学）

コメント 3 笹川裕史（埼玉大学）

コメント 4 小島泰雄（神戸市外国語大学）

コメント 5 江夏由樹（一橋大学）

コメント 6 宮嶋博史（韓国 成均館大学校）

コメント 7 岩井茂樹（京都大学）

コメント 8 鶴見尚弘（山梨県立大学）

閉会・解散 12 時 00 分

◆会場展示

南京市江心洲の地籍図・地形図

南京市江心洲の空中写真

外邦図